

三条市実学系ものづくり大学開設検討委員会（第2回）

議事概要

- 1 開催日時 平成28年11月30日（水）10時00分～11時30分
- 2 場 所 三条市役所 本庁舎2階 大会議室南側
- 3 出席者 [委員]
高橋（委員長）、兼古（副委員長）、シャハリアル、大湊、勝見、齋藤の各委員（6名）

[三条市（事務局）]
大平総務部長、市川政策推進課主幹、坂田高等教育機関設置準備室長、石田一般任用主事
- 4 傍聴者 なし
- 5 報道機関 越後ジャーナル社、エヌ・シイ・ティ、ケンオー・ドットコム、三條新聞社、新潟日報社、日本工業経済新聞社、北陸工業新聞社
- 6 配付資料
 - ・資料1 育成人材像のイメージ（案）
 - ・資料2 教育課程の骨子（履修体系イメージ）（案）
 - ・資料3 教育課程の骨子（履修体系イメージ・授業科目の例）（案）
 - ・資料4 授業科目の概要（案）
 - ・資料5 平成28年度スケジュール
- 7 会議概要
 - (1) 開会
 - (2) 事務局挨拶・配付資料確認
 - (3) 議事
 - 事務局から、配付資料に基づいて、育成人材像のイメージ、並びに、教育課程の骨子の事務局案について説明があった。
 - 各委員による意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

[育成人材像のイメージについて]

- ① 地域の現状では、Aコースの要素が多いと感じる。Bコースの場合には、伝統的な技術というよりは、近代的・現代的産業を担う企業でのインターンシップが想起される。
- ② 地域ではAコースの形をとっている企業が多いが、そこにプラスするという意味でBコースの必要性もあると考えられる。
- ③ 既存の工学部の範疇ではなく、経営の色彩が強い印象がある。新しいタイプの大学になり得るという点は評価できる。
- ④ 地域の産業構造は、転換期にあると思われ、新たな方向性の大学が当地域で生きることが期待している。当地域は技術は高いが知名度が低いという課題もあるため、例示授業科目の概要にあるような、ビジネスモデル立案や顧客開発による起業家育成に重点を置けるとよい。
- ⑤ 全工程から販売までを自社で行う企業が、顧客ニーズを製品に取り込むとともに、各工程を見せて品質保証を行うことで、脚光を浴びつつ、イメージアップを図れている。この大学でいろいろなことを学んだ技術のある人を採用することで、従来とは異なるものづくりの発想に対応していけるようになるとよい。
- ⑥ 既存の技術等を融合させて、潜在的なニーズを発掘する、つまり、新たなニーズを創造できる人材が必要。
- ⑦ 企業経営者の考えや具体の成功事例を教育の中に反映できるような大学は価値が高く、学生も、成功事例を近くで感じることで明確なビジョンを持つことができ、モチベーションを高めることにつながる。
- ⑧ 地域の技術に対する自信とモチベーションを上げることと、その技術を継承可能な形にすることの両面が必要。
- ⑨ 従来の職人仕事では限界があるため、自動化・半自動化は必要。そのものづくりの中で人間は何をするのかという視点を有することも必要。
- ⑩ 現場で頑張っている人が、現在の技術・技能に何かをプラスアルファするために学びに行くといったような、社会人の学び直しのイメージがある。工業についての専門性とアドミッションポリシーがはっきりしていない。三条にある大学だからこそ作れるのだという象徴的なもの、核となるものが必要。
- ⑪ 特定の工業技術について、これのスペシャリストであると言えるような深い専門性を身に付けさせるとともに、付加価値を持たせたい。
- ⑫ 学生募集に際してや、入学した学生のモチベーションを高めるためにも、卒業後のビジョンのイメージを具体的、かつ、わかりやすく示すことが必要。

[教育課程の骨子について]

- ① この大学では長期企業インターンシップの受け入れ先とその質の担保が重要であることから、その内容・メニューを予め明確に示すことが必要。
 - ② 長期企業インターンシップを学生・企業・大学・三条市の四者にとって相互メリットのあるカリキュラムとしていく必要がある。他大学にはないインターンシップの特長等を打ち出し、引いてはそれが育成人材像にもつながるとよい。
- 事務局から次回開催予定時期と議題案についての説明があった。
- (4) 閉会

了